【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成22年9月30日(2010.9.30)

【公表番号】特表2010-514485(P2010-514485A)
【公表日】平成22年5月6日(2010.5.6)
【年通号数】公開・登録公報2010-018
【出願番号】特願2009-543531(P2009-543531)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｆ　13/49　　(2006.01)
Ａ６１Ｆ　13/56　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ４１Ｂ　13/02　　Ｈ

【手続補正書】
【提出日】平成22年8月12日(2010.8.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
しかしながら、このタイプの方法に内在する欠点は、そこに形成される個別の部材／物品は、切断された後でなければ突出する接続部材と係合できないということである。このことは、留め部の選択の可能性を主にマジックテープ（登録商標）部材に制限する。
特に、例えば国際公開第９６／２４３１９パンフレットにより知られる請求項１のプリアンブルによれば、発明は方法に関連している。また、国際公開第９７／３２５５２パンフレット、国際公開第９８／１４１５６パンフレット、それほどではないが米国特許出願公開第２００４／０２４５０６９号明細書、欧州特許出願公開第１７１９４８４号明細書、および国際公開第２００６／０６３０２９パンフレットは、発明に関連する。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１８】
本発明によれば、この目的は、請求項１に記載される特徴を有する方法により達することができる。本発明の有益な展開は、従属項の内容を成す。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５９】
図４には２つのストリップ３０が示され、それらは、図４に示すように、共通に設置されたカッティングユニット１００に向かって左から右へと進む。この策は、以下にさらに明確に説明する、サイドパネル３の２つのアレイまたはチェーンの可用性を実現できる限りにおいては好適である。すなわち、２つのアレイまたはチェーンは、一方の衛生物品とそれと同じ衛生物品の２つの対向する側に適用できれば好ましい（図１および２を参照）
【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６０】
カッティングユニット１００（例えば回転ナイフを有するもの、あるいは、ＥＰ－Ａ－１　４４７　０６８または欧州特許出願公開第１７３６２７２号明細書に記載されるタイプのカッティングユニット）は、ストリップ３０のそれぞれにおいて、ラベル７の間に切れ目を入れることが可能であり、それは、ストリップの特定の形状または経路がどうであれ、ストリップ３０の進行方向に対して大体斜めである。これらの切れ目は、図４において参照符号ａおよびｂとして指定され、図２および３においてａ，ａ'およびｂ、ｂ'として指定されるパネル３の両縁に正確に対応する。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７２】
上記「リピッチ」およびパネル３０を存在する平面から１８０度回転させる動作は、既知の機器によって実行されてよい。例えば、リピッチの動作に関し、われわれの考えを本出願人の名前で出願された特許文献に限れば、例えば、欧州特許出願公開第１７９４９５号明細書ＥＰ－Ａ－１　１７９　４９５および欧州特許出願公開第１７７２４０３号明細書に記載される策に依ることができる。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８０】
この第１のリピッチ動作が固定のピッチＰ１（図５参照）で実行されると、パネル３は、２つのうちの１つのパネル３を１８０度回転させる回転ユニット３００（図７参照）まで間隔を置いて送られる。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８５】
特に、この「最終的な」離間ピッチは、図７に概略的に示すように、パネル３が貼付される個別の物品の全体の長さに実質的に相当するピッチＰ２の値に対応する（例えば３６０から６００ｍｍ）。